

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／教職実践演習(小学校)c (Practice Teaching Seminar(Primary Education) c)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	小学校教員という教職に求められる資質及び能力の再確認		
担当者名 (Instructor)	秋保 恵子(AKIHO KEIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	EDU4710	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

卒業後間もなく小学校の教職に就くに当たって、以下の4点について4年間の立教大学での「学び」を振り返り、必要に応じて不足している知識や関心意欲態度を補充する。

- ア) 小学校教員への使命感や責任感、
- イ) 社会人としての対人関係能力、
- ウ) 児童理解や学級経営に関する知識、
- エ) 教科指導に関する知識

When students work as teachers at elementary schools in the near future, they will reflect on the following four points studied during their four years at Rikkyo University, and as needed supplement any insufficient knowledge or motivation.

- A) Sense of motivation and responsibility to elementary school teachers
- B) Proficiency in handling personal relationships as a member of society
- C) Knowledge related to pupil understanding and class management
- D) Knowledge related to subject instruction

授業の内容(Course Contents)

「授業計画」にある各回のテーマやキーワードに関して、講義及び演習を行う。その際の集団による考察・議論・発表などには主体的に臨む。

Students will take lectures and practice on each theme and keyword in the "Course Schedule". The group consideration, discussion and presentations at that time will be examined independently.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:①担当講師の自己紹介、②授業構成と授業予定の紹介、③これまでの学修の振り返りと履修カルテの活用、④学び続ける教師、⑤学習指導要領改訂の概要を含む初等教育界の動向概観
2. 「小学校教員としての使命感と責任感」の確認と補充(1)
教員の役割・職務内容、教職の意義、子どもに対する責任
3. 「小学校教員としての使命感と責任感」の確認と補充(2)
特別な支援を要する児童の指導事例、インクルーシブ教育、指導力
4. 「社会性、対人関係能力」の確認と補充(1)
保護者とのトラブル事例研究①、職場における「同僚」との関係、学校組織と管理職
5. 「社会性、対人関係能力」の確認と補充(2)
保護者とのトラブル事例研究②、地域住民や社会教育施設との関係
6. 「児童理解と学級経営力」の確認と補充(1)
学級経営方針(学級経営案作成)とその実際
7. 「児童理解と学級経営力」の確認と補充(2)
教員の得意分野を活かした学級経営や教科・領域教育の実践と児童理解(外部講師による)
8. 「教科指導力」の確認と補充(1)
受講生の研究テーマ(A)に基づく授業実践、研究協議
9. 「教科指導力」の確認と補充(2)
受講生の研究テーマ(B)に基づく授業実践、研究協議
10. 「教科指導力」の確認と補充(3)
受講生の研究テーマ(C)に基づく授業実践、研究協議
11. 「理論と実践を考える力」の確認と補充(1)
文献講読(A)と議論
12. 「理論と実践を考える力」の確認と補充(2)
文献講読(B)と議論
13. 「理論と実践を考える力」の確認と補充(3)

文献講読(C)と議論

14. まとめ

①4月から教壇に立つ心構え、②即求められる幾つかの知識とそのスキル、③はなむけの言葉

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・授業の準備(文献講読、テーマについての事前調査など)と振り返り(文章によるまとめ)が、一回毎の授業の質を高めることを理解し、各回の授業外学習の課題には主体的に取り組む。
・履修カルテへの記入や資料収集などを主体的に実践しポートフォリオ的に自己評価していく。とくに、教育学科からの履修ファイルを活用するので、折々の必要性に応じて履修カルテの記入を忘れないようにする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%) / 演習参加態度、ロールプレーイング(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. デューイ、1957、『学校と社会』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-336522-9)
『学校と社会』は第 11 回から第 13 回に使用するため、各自が必ず持参すること。
その他、必要に応じて紹介したり配布したりする。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・本授業は教職に就くための必須の科目である。教育実習等止むを得ない事情以外の欠席及び遅刻のないようにとくに留意すること。なお、教育実習期間等に本授業の日程時程が重なった場合は、必ず定められた形式での届け出をすること。
・外部講師の都合等で内容の順番が入れ替わったり変更したりすることがある。第 1 回目のオリエンテーションの授業で日程内容等、必ず確認をすること。また、教育実習等で出席できなかった場合、その回の内容の情報収集を怠らざしておき、必要な対応をとること。具体的な欠席に対する対処方法はオリエンテーション時に連絡する。教育実習による欠席者に対する補講をする場合がある。

注意事項(Notice)